麦の需給に関する見通しの公表について

主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成６年法律第113号）第41条第１項の規定に基づき、麦の需給に関する見通しを平成28年３月31日付けで次のとおり定めたので、同条第３項において準用する同法第４条第５項の規定に基づき、公表する。

平成 28 年４月 13 日　　農林水産大臣　森山　**裕**

麦の需給に関する見通し

麦の需給に関する見通しの策定の考え方

麦の需給については、国内産麦では量的又は質的に満たせない需要分について、国家貿易により外国産麦を計画的に輸入することとしています。

平成28年度の麦の需給に関する見通しについては、近年の総需要量や国内産麦の流通量の実績等を踏まえ、以下のとおりとします。

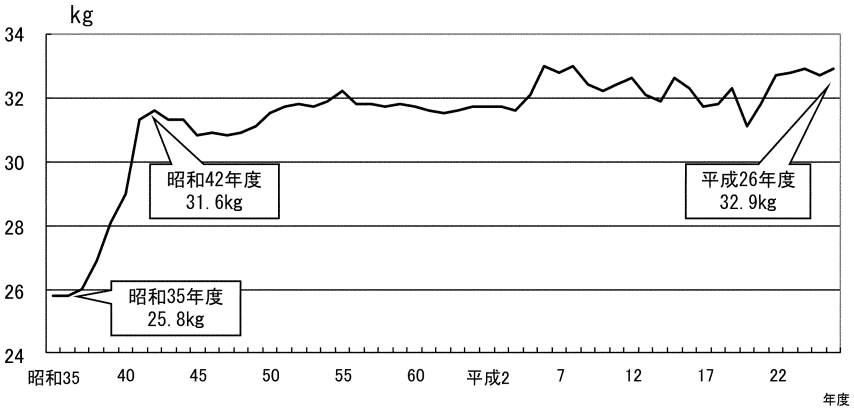
１－１　食糧用小麦の総需要量

近年、食糧用小麦の１人当たりの年間消費量は、概ね31～33kgで安定的に推移している中（図１）、総人口についても、ここ数年では大きな変動がみられません。

このため、食糧用小麦の総需要量㈱は、短期的な変動はあるものの中期的には安定していることから、平成28年度の食糧用小麦の総需要量は、過去５か年（平成23年度から平成27年度まで）の平均総需要量である572万トンと見通します（表１）。

㈱　食糧用小麦の総需要量は、国内産食糧用小麦の流通量及び政府からの外国産食糧用小麦の販売数量の合計である（以下同じ。）。

図１　食糧用小麦の消費量の推移（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成26年度の数値は概算値である。

表１　食糧用小麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年度比
平成21	560	102%
22	555	99%
23	570	103%
24	608	107%
25	525	86%
26	606	115%
27見込み	552	91%

28年度見通し
572万トン
（過去５か年平均）

１－２　国内産食糧用小麦の流通量

⑴　国内産食糧用小麦の供給量（当年産の小麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量）

平成28年産の国内産食糧用小麦の供給量（注１）は、平成27年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成28年産の作付予定面積（208千ha）に、過去５か年（平成23年産から平成27年産まで）の10ａ当たりの収量のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値（399kg）を乗じ、さらに、食糧用供給割合（98.2%）（注２）を乗じて、81万トンと見通します（表２）。

（注１）は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される数量である。

（注２）当年産のうち、食糧用として生産者から実需者に引き渡される割合（それ以外は、種子用、規格外等）。平成28年産については、過去５か年（平成23年産から平成27年産まで）のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値である。

⑵　国内産食糧用小麦の流通量（前年産と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通する量）

平成28年度の国内産食糧用小麦の流通量は、平成28年産の国内産食糧用小麦の供給量に、年度内供給比率（注３）を乗じ、さらに、平成27年産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて、82万トンと見通します（表２）。

（注３）当年産の供給量のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡される数量の割合。平成27年産について、実需者から提出された平成27年産麦の購入計画から算出し、平成28年産については、過去５か年（平成23年産から平成27年産まで）のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値としている。

表２　国内産食糧用小麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年　　産	食糧用小麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成23	69	22	31.6%	48
24	81	38	46.7%	43
25	77	28	36.9%	48
26	81	33	40.8%	48
27見込み	95	47	49.5%	48
28見通し	81	34	41.5%	↓
		28年度流通量見通し		82

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。